

▽ Glee Club



Doshisha
Glee Club

第94回 同志社グリークラブ定期演奏会

1998年12月14日(月) ザ・シンフォニーホール

Doshisha College Song

*One purpose Doshisha, thy name
Doth signify one lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine
Tho' through the world we wander far and wide
Still in our hearts thy precepts shall abide*

*Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than selflove we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divina
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood.*



第94回

同志社グリークラブ定期演奏会

1998年12月14日(月) ザ・シンフォニーホール



御挨拶

本日はお忙しい中、同志社グリークラブ第94回定期演奏会にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。

本年はアメリカ演奏旅行を皮切りに、東西四大学合唱演奏会、関西六大学合唱演奏会といった定期演奏会に加え、東京・静岡・鳥取・和歌山をはじめ、国内各地で演奏会を行う等、多忙さの中にも充実感のある1年でありました。

反面、別の意味での「充実感」も味わうこととなりました。それは、部員数の減少等の諸問題に対応するために様々な改革を試みたことです。この1年、新入生の勧誘活動やクラブ内の組織の見直し等、“マンネリ化”という伝統そのものが持つ負の遺産に対する闘いを挑んで参りました。この中で、私共は、94年の伝統の重みを改めて知ると同時に、その伝統に甘んずることなく、志高く前進する姿勢を持つことの尊さを実感致しました。本日の演奏会では、演奏そのものによる感動もさることながら、団員個々の真摯に物事に取り組む姿を皆様にお伝えできればこれ以上に幸いなことはありません。

最後になりましたが、本日の演奏会はもとより、本年の様々な行事にご協力下さった諸先生、諸先輩や関係者の方々に深く御礼申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブ部員一同

Greeting



同志社総長
松山 義則

このたび同志社グリークラブが定期演奏会を開催することになりました。心からお喜びを申し上げます。100年におよぶ歴史と伝統を担うこの合唱団は、高い芸術性と敬虔な思いに満ちて研鑽を積み重ねてまいりました。今春にはアメリカ横断演奏旅行を行い、イェール大学などの学生合唱団との交歓演奏会に臨み、音楽を通しての国際交流に寄与してまいりました。申しあげるまでもなく、音楽は人類に共通する感動を形成するものであり、その共感を通して世界の人びとを一つにするものであります。今夕もまた同志社大学グリークラブの美しい演奏をお楽しみいただけるものと存じます。

同志社は1875年、新島襄によって創設されました。キリスト教主義を建学の精神として自治、自立、自由と良心教育の実現を願ってまいりました。同志社グリークラブはその伝統のなかで育成された学生男声合唱団であり、音楽に生きるその思いには、人間に対する深い洞察と心からなる愛がこめられています。ご来会いただきました皆様に御礼を申し上げますとともに、音楽を愛される方々の輪が広がりますように願います。



同志社大学長
八田 英二

第94回同志社グリークラブ定期演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

同志社グリークラブは90年以上にわたり同志社大学を代表するクラブとして活動を続けています。今年も6月に東西四大学合唱演奏会、8月に20数年ぶり2度目の鳥取公演会、また11月に関西六大学合唱演奏会など様々なステージで活躍しています。また活動の場は日本国内にとどまらず、2月下旬から3月上旬にはアメリカ横断演奏旅行を実施し、各地でジョイントコンサートを行い大成功を収めました。今宵の演奏会でも、日頃の練習の成果を発揮し、熱のこもったステージを展開してくれることを期待しております。部員の情熱、意気込みが伝われば幸いに存じます。

ご多忙中にもかかわらずご来場いただきました観客の皆様、また演奏会の開催にあたりご尽力くださいました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。



同志社グリークラブ顧問
澁谷 昭彦

私は、今年度で定年退職となり、同志社を去る。と言っても、まだ2～3年は同志社で教えることになるし、来年度担当する教科数は、今年と全く同じである。それに、私自身は、グリークラブと縁が切れるわけではないが、少なくとも、学校サイドのグリークラブ顧問を退くことになる。

遠藤彰先生から顧問を引き継いだときに、グリークラブOB会報に顧問就任の挨拶として書いた一文が思い出される。すなわち、「グリークラブを、同志社という学園にある学生合唱団として、そのあるべき姿に少しでも近づけるために、努力したいと考えています。……」と述べている。そのあるべき姿として、念頭にあったことは、新島襄の目指した同志社教育、すなわち、キリスト教主義にもとづく良心教育、知、徳、体、三位一体の全人教育、自由主義、国際主義の伝統にマッチしたグリークラブの姿であった。

演奏会のメッセージの中で、また、事あるごとに繰り返し述べてきたことは、表現の差こそあれ、グリークラブの抱って立つところのものとは何かと考へ、自覚し、演奏に臨むことであった。とくに、定期演奏会は、アイデンティティーのあくなき追求と明示、自己確認、自己主張の場としての演奏会であることをよく認識すべきであると主張してきた。

グリークラブの歴史と伝統、そのツールを忘れては、根なし草となって彷徨のみである。グリークラブが普通の合唱団になってしまっ、普通の演奏会をするなら、演奏がいかに優れていても、ただそれだけの話である。同志社グリークラブ顧問退任に際し、又しても強調したいことは、「同志社グリークラブ」の「同志社グリークラブ」たる所以を強烈に訴える演奏を今後ともずっと続けてもらいたいということである。

先日、朝日新聞は「あえぐ大学の男声合唱団」として、最近のグリークラブを取り上げ、暗い印象先走り、新入生は敬遠とその原因を表現していた。

11月8日のフェスティバルでの六連を聴き、各大学の部員の激減ぶりには、今更ながら驚いたが、同志社グリークラブは38名の小人数ながら声はしっかり出ていたし、出来具合もきっちりまとまっていたように思う。完全に満足できるものではなかったものの現状ではベストを尽くしてくれたと喜んでいる。

同志社グリークラブ最盛期の昭和30年代では部員は常時150～160名を誇り、定演のオン・ステージ・メンバーは厳しいセレクトを経た80名程であったと記憶する。時代・環境が異なる時代と比較の仕様はないが、厳しい練習があったからこそ、その時代のトップレベルを維持し、今もなお良き思いでとして心に残っている。

40名足らずの部員数になっても、努力することによって、多くの未知数の力を引き出せる可能性がある。今宵も、[良い音色]を聴かせてもらえることと期待する。



同志社グリークラブOB会理事
松村 時男

Program

Doshisha College Song

作詞：W. M. Vories

作詞：Carl. Wilhelm

1st Stage

「Kaj-Erik Gustafsson 男声合唱作品集」

作曲：kaj-Erik Gustafsson

指揮：伊東恵司

Salve Regina

Kyrie

Gloria

Sanctus

Agnns Dei

2nd Stage

「Doshisha Glee Club Selection」

指揮：浅井敬壹、伊東恵司、石井隆昭

Doshisha Song

Eli Yale

Little Inocent Lamb

Deep River

最上川舟歌

おてもやん

3rd Stage

男声合唱組曲「月光とピエロ」

作詞：堀口大學

作曲：清水脩

指揮：浅井敬壹

月夜

秋のピエロ

ピエロ

ピエロの嘆き

月光とピエロとピエレットの唐草模様

4th Stage「The Testament of Freedom」

原文：Thomas Jefferson 作曲：Randall Thompson

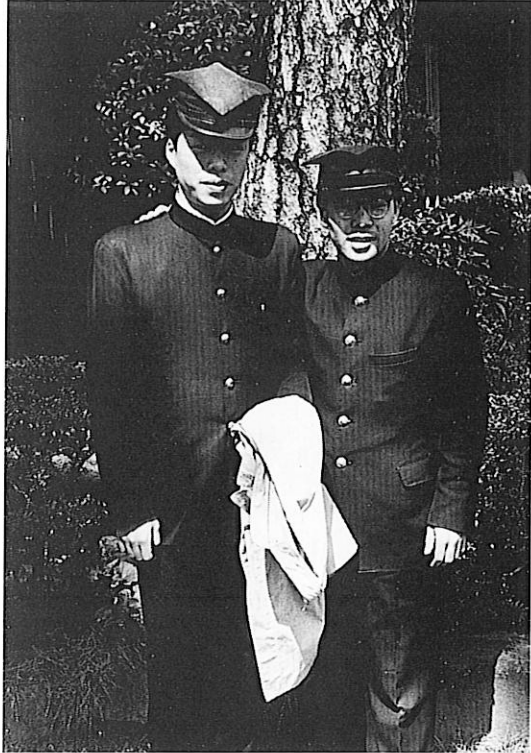
指揮：石井隆昭 ピアノ：長田育忠

I . The God who gave us life.

II . We have counted the cost.

III . We fight not for glory.

IV . I shall not die without a hope.



客演指揮者
浅井 敬壹

1939年京都生まれ。3才より8才まで満州にて育ち、終戦で引き上げる。中学時代、恩師急病のための代役として初めて指揮棒を握り、これが今日までの45年間にわたる合唱指揮生活の始まりとなる。同志社大学在学中には、同志社グリークラブの指揮者として一時代を画し、同時にグリークラブ以外に5団体を指揮する。

1962年、同大学卒業。その年の12月、「千年の古都・京都に世界の合唱団を」の理想を掲げ“合唱団京都エコー”を結成。現在、団長・音楽総監督・常任指揮者を務める。そのダイナミックで情熱的な指揮、心豊かな表現力には、歌う者も聴く者も思わず引き込まれる。特に邦人作品における鋭い詩の解釈と表現には定評がある。また、人間味あふれたその指導力により、多くの合唱団での客演や合唱講習会の講師、コンクールの審査員としても多忙を極めている。

全日本合唱コンクールでの実績としては、現在までに合唱団京都エコー・住友金属混声合唱団等を全国大会へ導き、金賞受賞団体の指揮者に贈られるメダルは31個を数える。加えてコンクール参加合唱団のうち、部門を超えて最も優れた団体に贈られるコンクール大賞をも6度受賞している。レコード・CD音楽も数多く、古くは日本アカデミー、近年は合唱団京都エコーの名で東芝EMIから発売されている合唱曲集などを手掛けてきた。

全日本合唱連盟常任理事。関西合唱連盟副支部長。京都合唱連盟理事長。日本合唱指揮者協会会員。住友金属混声合唱団常任指揮者。

今年の6月に行われました東西四連に引き続き同志社グリークラブを振らせて頂くこととなり大変光栄を感じると共に、同志社グリークラブの演奏を世に出すということに大きな責任を感じております。

さて、私がこのクラブに在籍した当時、186名の部員がいたように記憶していますが、近年同志社グリークラブは部員が減少し、今年の部員数は50名前後となっているようです。単純に計算しても186キロの体重が50キロに減ったということでありOBとして、また1人の合唱人として寂しさを覚えます。しかし、とても嬉しいこともありました。それは初めて練習場に入った時のことでした。37年前と何ら変わらない同ヤンの発散する体臭がそこには未だに残っていたのです。同志社グリークラブというブランドを背負って演奏をするという、時代が流れても変わらないその事実の中で愚直なまでに真摯に自分たちの音楽を追及し、そのために考え悩むことから発散されるのでしょうかその体臭が私に学生時代を思い出させた重なり合い、彼らと同じ気持ちで音楽を創るに限らず語り合うことができ、楽しい時間を過ごさせてもらうことができました。

思えば大阪大学男声合唱団の定期演奏会のレセプションで“同志社グリークラブを振っていただけないか”と言われてから早1年が過ぎようとしています。その間、指揮者の石井君やマネージャーの藤田君と出会い男同士の本音の会話を交わし合ったり、私のラジオ出演のための原稿と一緒に考えたりと色々なことが頭をよぎります。今宵はそのような楽しい思い出を胸に秘め、彼らの1年間の集大成のこの演奏会を、私の同志社グリークラブとのこの1年間の集大成とすべくステージに臨みたいと思います。



指揮者
伊東 恵司

1990年、同志社大学を卒業。

在学中はポストモダン芸術論を専攻し、音楽論、映画論、写真論等に造詣を深める。また、同志社グリークラブ第58代の指揮者として、「向かうところ敵なし・・・」とさえ言われた黄金期を築くとともに、指揮者の(故)福永陽一郎氏より絶大な信頼を受け、ヨーロッパ演奏旅行、東西四連、定期演奏会等で多数の名演を残す。卒業後、90年より「淀川混声合唱団」の指揮者として活動。93年には「なにわコラリアーズ」を創設。演奏会を始めとし、関西合唱コンクール、宝塚国際室内合唱コンクール等でも活躍中。(本年度関西合唱コンクールでは、2年連続の金賞受賞を果たした。)

母校に勤務する傍ら後輩の指導にもあたり、93年には同志社グリークラブのアメリカ演奏旅行にも同行。ボストンシン・フォニーホールの演奏会で「Missa O magnum mysterium」を指揮し好評を得る。昨年の定期演奏会では「水のいのち」を指揮。本年度は夏期の国内演奏旅行にも同行。鋭く繊細な感性、的確で分かりやすい指導により学生からの信頼も厚い。同志社大学学生課(今出川)勤務。

今回、昨年の「水のいのち」に引き続いて同志社グリークラブの定期演奏会の舞台に立つことになりました。

近年、合唱を取り巻く環境は大きく様変わりし、より多様な形態の合唱の在り方、音楽との接し方、幅広いジャンルが目の前に広がってきているように思います。その一方で大型の学生合唱の活動は、大学そのものの構造改革などあって、「時間を共有する事自体の困難さ」に直面しているような気がいたします。この大きな過渡期にあって「同志社グリークラブ」もまた、諸先輩から受け継がれてきた「歌に対する思い」を大切にしながらも、自分たちの活動自体を見詰め直さねばならない時期にきていると言えるでしょう。ともすればノスタルジックに「守るもの」として捉えがちな「伝統」を、常に今日的な課題と環境の中で「構築していくもの」としてポジティブに捉え直していくことこそが、伝統ある合唱団に課せられた使命であるようにも思います。

今年は、前期から東京・静岡への演奏旅行を含めて付き合うことが出来、同グリの状況や課題を学生とともに感じ取ることが出来ました。ともすれば学生の活動は「硬直的」になりがちなものですが、練習や活動のあり方を模索し工夫しながら、直面する課題を一つ一つ克服し大胆に行動して欲しい・・・と日々考えております。

昨年「水のいのち」を熱唱してくれたグリーンメンが、今回、新しいレパートリー(ちょっと難しすぎたかな?)に対してどのように取り組んでくれるかに興味がありました。状況に応じた様々な「合唱の楽しみ」を探ればと思います。



ヴォイストレーナー
大久保 昭男

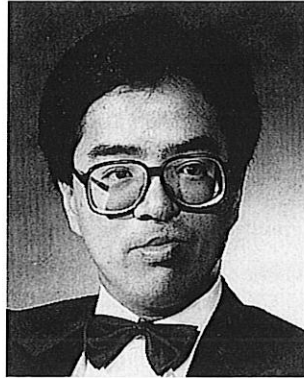
1953年東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勁吉氏に師事。1953年5月、NHKオーディションに合格。数多くの放送、演奏会に出演。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」(初演)ドヴォルジャーク作曲「ルサルカ」(初演)などにも出演。1959年には、ドイツ・リードおよび日本歌曲による第1回リサイタルを開く。その後、関西学院グリー、同志社グリー、慶應ワグネル、立教大学グリー、明治大学グリー、法政大学アカデミー合唱団をはじめとする大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍、現在に至る。元、東京芸術大学講師。現在、昭和音楽大学短期大学部教授。

今年も早いもので、大きな定期演奏会がやって来ました。春の四月に一回生を迎えて、雨の日も風の日も、大きな忍耐と努力の力強い魂を音楽に注いで来られたグリーの諸君に敬意を感じます。

私は沢山の洋蘭を育てて居ります。今は秋咲きのカトレアが美しく咲き競って、日頃の私の愛情に応えてくれています。一年間の毎日をこの日のために、エネルギーを蓄えて、立派に開花して目を楽しませてくれる植物の心は、何か音楽を作り上げていって、感動を与える演奏に似ている様な気がします。

素晴らしい演奏の前には、必ず大きな力がどうしても必要です。その大きな力を進んで積み重ねてゆく若者の姿は、とても美しいものです。

今宵も大きな音楽の花が咲いてくれることを願ってやみません。



ピアノ
長田 育忠

同志社大学法学部政治学科卒業。
ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョルジ・ナードル、H・ビューグ＝ロ
ジェの諸氏に師事。歌曲伴奏法をルドルフ・ヤンセン氏に指示。またオルガンをジャン・メル
オー神父に指示。
主に声楽・合唱音楽等の伴奏者として演奏活動を続けるほか、宗教音楽のオルガニストとし
ても数多くの演奏会に出演するなど幅広く活躍。
1986年2月、ボストン交響楽団京都公演にスタッフとして参加。
1986年6月、90年1月、91年1月、99年4月にリサイタルを開催。
社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員。

三週間に及ぶアメリカ演奏旅行で始まった今年は、同志社グリークラブにとってはまさに試
練の年であった。ここ数年続いている部員数の減少、専任指導者の不在、そしてそれらに伴う
“演奏レベルの低下”の声が多方面から聞かれる中で、活動内容の見直しを与儀なくされる事
も少なくなく、現役諸君はさぞかしいろいろ悩み苦しんだに違いない。今宵のステージ構成の
スタイルもこれまでの定期演奏会とはやや趣の異なったものとなったが、これも彼らなりに熟
慮の結果である。だが、これまで当然の事のように思われてきた従来の活動を今一度考え直し
て、今後も伝統として守っていかねばならない事と、その時々状況に即して変えていくべき
事とを見極めるよい機会になったと思えば、この一年も決して無駄にはならないであろう。

例年以上に現役諸君と同じ時間を過ごす事の多かった私自身、彼らと共にまさにその渦中
にあって、冷静な目で客観的に現状を見据える事は難しかったが、彼らの苦勞を間近に見てい
て感じたのは、どんな場合でも決して手を抜く事なく精一杯の努力をする真摯な姿であった。そ
の中心にあった学生指揮者石井隆昭君は、人物は朴訥で純情そのもの、およそ器用とは言い難
いけれど、音楽に対する情熱は誰にも負けないらしい。アメリカ各地を皮切りに幾多のステ
ージを経験して、彼なりの音楽の表現方法をつかんだようだ。

R.Thompsonの『The Testament of Freedom』は、曲の構成こそシンプルながら、オーケストラ
なピアノパートを伴い、格調の高い文言と共に壮大な楽想をもった音楽である。今宵ばかりは
いろいろな悩みをしばし忘れて、ご来聴いただいた皆様とお世話になった方々への感謝と共に、
現役諸君と一緒に旅した広大なアメリカの大地に思いを馳せながら演奏したいと思っている。



第67代学生指揮者
石井 隆昭

今年1月、学生指揮者に就任。2月から3月にかけてのアメリカ演奏旅行では、全30ステ
ージを指揮し成功に導く。この間、イェール大学のDavid Connel氏、アーモスト大学のMollorie
Chernin氏等よりアドヴァイスを受ける。

帰国後、数多くの演奏活動を成功に導くが、特に6月の第47回東西四大学合奏演奏会、8・
9月における東京・静岡・鳥取の各演奏旅行、11月の第25回関西六大学合唱演奏会等で活躍し
た。

永遠の好敵に栄えあれ！

第48回東西四大学合唱演奏会

1999年6月27日（日）昭和女子大学人見記念講堂

同志社単独演奏 松原千振

合同演奏 荻久保和明

第17回同関交歓演奏会

1999年6月19日（土）新大阪メルパルクホール

お問い合わせ：同志社グリークラブBOX 075-251-3185（呼）

関西学院グリークラブ 0798-52-6471

合唱団京都エコー

団員募集

団長・音楽総監督・常任指揮者

浅井 敬壹

練習時間：毎週土曜日18:05~21:00

お問い合わせ・お申し込み

団員募集：佐伯 幽
Tel.075-724-0302 (FAX兼用)

コンサートチケット：山田ひとみ
Tel.075-822-7031 (FAX兼用)
E-mail:88686936@people.or.jp

京都コンサートホール チケットカウンター
Tel. 075-711-3231

1999年2月13日(土) 演奏会 燦

創立35周年記念

京都コンサートホール大ホール 午後7時開演
(午後6時15分開場)

SS席4,500円 S席3,500円 A席2,500円 B席1,500円

第一部

日本の抒情歌より

現代の無伴奏宗教曲集
A.Schnittke
合唱のための協奏曲より
第二楽章 他

第二部

J.Brahms Nänie

三善 晃

混声合唱と2台のピアノの
ための交響詩「海」

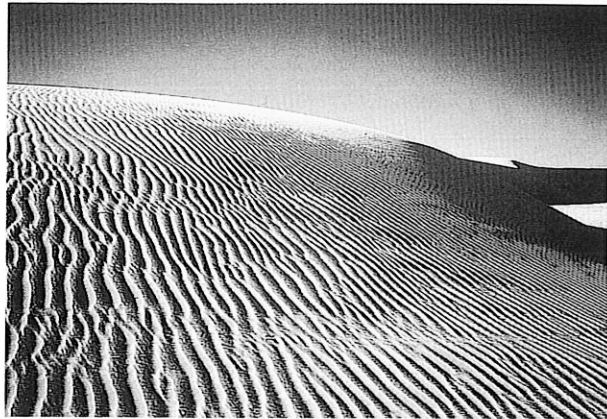
指揮：浅井敬壹 鈴木捺香子 佐伯 徹

ピアノ：藤沢篤子 久邇之宣

京都エコーホームページ <http://schnit.kpu.ac.jp/Echo.html>

1th Stage

Kaj-Erik Gustafsson 男声合唱作品集



演奏にあたって

K.Gustafssonはフィンランドの現代作曲家（オルガン奏者）として多数の合唱作品を生み出している。最近になって（指揮者の松原千振先生らの積極的なご紹介もあり）、合唱王国である北欧の合唱曲は一般合唱団のポピュラーなレパートリーとしても定着しつつあるが、日本においては少ないと思われがちな男性合唱のオリジナルレパートリーにもまだまだ埋もれた名曲が豊富にあるように感じられる。

1977年の作品「Salve Regina」のテキストはマリアをたたえる有名な聖歌の一つである。美しい短旋律（美しく歌うのは非常に難しい）から始まり、きらきらと輝く和音が母音の長短を生かしたフレーズとしなやかな語感の彩りとして散りばめられている。ハーバードグリークラブが好んでよく演奏しているが、深すぎる発声を避け、優しく温かい「響き」によって音が舞い上がっていくような雰囲気演奏したい曲である。

また、1979年の作品である「Missa A Cappella」より「Kirie」「Gloria」「Sanctus」「Agnus Dei」の4曲を取り上げた。それぞれの声部が平明に書かれているのに、重ね合わせることによって多彩なハーモニーに生まれ変わる点は、合唱の「楽しみ」そのものを体現しているものとも言える。

これらは西洋音楽の伝統的なミサのテキストを用いながらも、独自のハーモニー感覚に満ち、随所には現代的な仕掛けが施されている。トーンクラスターの手法や音の重なり具合は教会のオルガンで再現してみると見事な原始キリスト教的な恍惚感と充足感に包まれ、この曲がやはり「純粹でひたむきな気持ち…」や「祈りの心…」を源泉として作られていることを実感せずにはいられない。にも関わらずに随所に散りばめられた不協和音やいわゆる「9度」や微妙な音のぶつかり合いや新鮮な和音を生み、ロマンチズムに溺れない現代的な色合いが溢れる作品にもなっている。

協和音と不協和音の組み合わせは聞き手に一面的ではない複雑な印象を与えるが、考えてみれば、現代という多様性を持った世界（社会）や、人間の内面の複雑性そのものと直感的に結びついているとも言えるのではないだろうか。そして、その「揺らぎ」そのものが宗教的な救済や信仰心と絶えず「呼吸」を合っていることを物語っているようにも思うのだ。

同志社グリークラブでは第90回定演で本山秀毅先生が同じくK.Gustafssonの「Deprofundis」1曲を取り上げているが、まとめて取り組むのは始めてとなる。

本年度は浅井先生による情緒豊かな「月光とピエロ」を期待して、しばらく途切れていた「新しいレパートリーを開拓する」側に回ってみた。「大きな声を出して叫び過ぎているような気がしている（…愛情を込めての感想）」同志社グリーに対して、少し「耳」と「アンサンブルに対するセンス」を養うきっかけともなれば…という期待も込めて選曲してみた。（練習に苦労したのは言うまでもないが…）

伊東 恵司

SALVE REGINA

Salve, Regina, master misericordiae:

Vita, dulcedo, et spes nostra, salve.

Ad te clamamus, exsules, filii hevae.

Ad te suspiramus, gementes et flentes in hac lacrimarum valle.

eia ergo, advocata nostra,

illos tuos misericordes oculos ad nos converte.

Et Jesum, benedictum fructum ventris tui,

nobis post hoc exsilium ostende.

O clemens: O pia:

O dulcis Virgo Maria.

Kyrie

Kyrie, eleison.

Christe, eleison.

Kyrie, eleison.

Gloria

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax hominibus bonas Voluntatis.

Laudamus te,

Benedicimus te,

Gratias agimus tibi propter maganam gloriam tuam.

Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater omnipotens.

Domine Fili unigenite, Jesu Christe.

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.

Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.

Quoniam tu solus Sanctus, tu solus Dominus,

tu solus Altissimus, Jesu Christe.

Cum Sancto Spiritu, in gloria Dei Patris.

Sanctus

Sanctus, Sanctus,

Sanctus, Dominus Deus sabaoth!

Pleni sunt coelo et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis!

Benedictus qui venit in nomine Domini,

Hasanna in excelcis!

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:

dona nobis pacem.

めでたし、女王よ、哀れの（哀れみ深い）母よ、

我々の命よ、喜びよ、希望よ、めでたし。

汝に向かつて我々は叫ぶ、（それは）追放されたエバア（イブ）の子ら。

汝に向かつて我々は呻きを、嘆きを発する、ここ涙の谷に於て。いざ、それゆえにわれらの代願者よ、その汝の哀れみの目を我々に向け給え。

そして、祝福された汝の腹の果実（=子）イエスをこの追放の後我々に示し給え。

おお、慈悲深い、おお、仁慈な、
おお、甘美なるおとめ、マリアよ。

主よ、あわれみたまえ。

キリストよ、あわれみたまえ。

主よ、あわれみたまえ。

天のいと高きところには神に栄光、

地には善意の人に平和あれ。

われら主をほめ、

主をたたえ、

主をおがめ、

主をあがめ、

主の大なる栄光のゆえ（主に）感謝したてまつる。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

主なる御ひとり子、イエズス・キリストよ。

神なる主、神の小羊、父のみ子よ

世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう主よ、われらの望みをききいれたまえ。

父の右の座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。

主のみ聖なり。主のみ王なり。

主のみいと高し、イエズス・キリストよ。

精霊とともに父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

聖なるかな、聖なるかな

聖なるかな、万軍の神なる主。

主の栄光は天地にみつ。

主のいと高きところにボザンナ。

ほむべきかな、主の名よりにて来る者。

天のいと高き所にボザンナ。

世の罪を除きたもう主よ、

われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう主よ、

われらに平安を与えたまえ。

2nd Stage

Doshisha Glee Club Selection

同志社グリークラブでは、毎年6月に行われる東西四大学合唱演奏会（早稲田、慶応、関学、同志社）や、12月の定期演奏会のステージなどでかなり難度の高い作品を取り上げていますが、もちろんそれらが全てであるわけではありません。グリーメンが4人そろえば、いつでもどこでも歌える歌。ふと思いついたように歌いだし、いつのまにかハーモニーになってしまうような、気のきいた歌たち。部員全員がこれらの歌を愛し、愛しすぎたために、一般の方々の迷惑もかえりみず、居酒屋で、鴨川三条河原で熱唱してしまう、わたしたちにとっての愛唱歌をおとどけします。

Eli Yaleについて

アメリカ演奏旅行、Eli Eli Eli Yale 女性の学生プレジデントが即興で歌うソロに合わせて、我々をとり囲むように歌声が起った。これが彼等の歓迎のやり方。イエール大学ウールゼイ・ホールに設けられたディナー会場での出来事。

堅苦しい挨拶が、ゲストを辟易させる事をよく知っていて、とても気の効いたメッセージの伝え方を心得ている。

今回はこの思い出の曲を、同志社グリークラブ・バージョン（同グリでの4年間）にアレンジし、再現してみたいと思います。

ようこそ同志社グリークラブへ！

(曲目解説)

1. Doshisha song：〔澁谷昭彦同志社グリークラブ顧問の解説から抜粋〕「この曲の由来についてあまり分からないが、私が同志社中学に入学したとき（1946年）、すでに歌われていたので戦前から歌い継がれてきたと思われる。同志社イヴの音楽会の時に良く聴いたことを記憶している。Long may she live our Doshisha!（訳せば、同志社万歳）との簡単な短い歌ながら好んで良く歌われていた。」
2. Eli Yale：アメリカ東部の名門校イエール大学に古くから伝わる歌。大学生活がコミカルに歌われ、最後には泣き真似のパフォーマンスまで付くととてもアメリカらしい明るい曲である。
3. Little Innocent Lamb：非常にリズムックで明るい曲ではあるが、苦しい日常の中で死ぬまで信仰を貫こうとする黒人奴隷の切実な気持ちが歌われている。
4. Deep River：アフリカからアメリカに連れてこられ日々労働を強いられた、いわゆる黒人奴隷の中から生まれた曲。曲中に「ヨルダン川」という語が出てくるが、黒人奴隷は自分の不運な境遇をキリスト教の受難の一生になぞらえ、死後の安楽を願い歌った。
5. 最上川舟歌：最上川を舟で行き来する船歌の歌。重労働の中で、恋人への気持ちが朗々としたメロディー（追分節）でもって歌われている。追分節の旋律と掛け合いが見事に効果を出している清水脩の男声合唱用の日本民謡中、最高の傑作。山形県民謡。
6. おてもやん：田舎の年頃娘「おてもやん」の結婚騒動がコミカルに歌われている。熊本県民謡

1. Doshisha Song

Long may she live our Doshisha!

2. Eli Yale

As Freshman first we came to Glee. The ceremony made us pale.
As Sopher more we have a task. That hard training by sing and drink.
In Junior year we take our ease. Throw a dice and sing our luck.
In Senior year we act our part. In making love, and breaking heart.

3. Little Innocent Lamb

Little Lamb, little innocent Lamb.
I'm agonna serve God till I die.
Little Lamb, littie Lamb, little innocent Lamb.
I'm agonna seve God till I die.

Hypocrite, tell you what he do.
I'm agonna serve God till I die.
He'll talk about me, and he talk about you.
I'm agonna serve God till I die.

Debil, he's god a slippery shoe.
I'm a gonna serve God till I die.
Now if you don't mind, he gonna slip it on you.
I'm agonna serve God till I die.

'Cause dere ain' no dyin' over dere,
In dat hebbently lan', dere'll be joy!

Jes' take one brick from Satan's wall.
I'm agonna serve God till I die.
Satan's wall gonna tumble an fall.
I'm agonna serve God till I die

4. Deep River

Deep river, My home is over Jordan.
Deep river, Lord, I want to cross. Over into cam-pground.

Oh don't you want to go to that gospel feast.
That promis'd land where all is pease.

Oh deep river, Lord, I want cross over into camp-ground.

5. 最上川舟唄

エーヤーエーンヤエーエエ
エーンヤエト
ヨーイサノマーカシヨ
エンヤコラマーカシヨ
酒田さ行くはげまめ出ろちゃ
流行り風邪などひがねよにマーカシヨ
ヨーイサノマーカシヨ
エンヤコラマーカシヨ
ヨーイサノマーカシヨ
エンヤコラマーカシヨ

別れ幸さよ 山背の風だ
俺を恨むな 風恨めエンヤエト
何ぼ獲ってもたんとたとエンヤエー
エーンヤエト
ヨーイサノマーカシヨ
エンヤコラマーカシヨ
エニヤコラ エンヤコラ エンヤコラ
マカシヨ

6. おてもやん

おてもやん
あんた今頃 嫁入りしたではないかいな

嫁入りしたこたしたばってん
ご亭どんが ぐじゃっぺだるけん
まあんだ盃やせんじゃた
室役 薦役 肝煎りどん
あん人達のおらすけんで 後はどうなと（キャ）なろうたい

川端まつあんキャー巡ろい
かすが南瓜 どん尻引つ張って
花ざーかり花盛り
ピーチク ピーチク 雲雀の子
蔓珠沙華のいがいがどん

一つ山越え も一つ山越え あん山越えて
あたしゃあんたに惚れとるばい
惚れとるばってん言われたい
追い追い彼岸も近まれば
若者衆も寄らすけんで
ゆるゆる話しも（キャ）しゅうたい
男振りには惚れんばな
煙草入れの銀金具が
それがそもそも困縁たい
アカチャカベッチチャカチャカチャカチャ
アカチャカベッチチャカチャカチャカチャ
おてもやん おてもやん

月光とピエロ

詩 堀口 大学

一. 月夜

月の光の照る辻に
 ピエロさびしく立ちにけり
 ピエロの姿白ければ
 月の光に濡れにけり
 あたりしみじみ見まはせど
 コロンビイヌの影もなし
 あまりに事のかなしさに
 ピエロは涙ながしけり

二. 秋のピエロ

泣笑いしてわがピエロ
 秋ぢや！ 秋ぢあ！と歌うなり
 の形の口をして
 秋ぢあ！ 秋ぢあ！と歌うなり
 月のようなる白粉の
 頬が涙を流すなり
 身すぎ世すぎの是非もなく
 おどけたれどもわがピエロ
 秋はしみじみ身に滲みて
 真実なみだを流すなり

三. ピエロ

ピエロの白さ！
 身のつらさ！
 ピエロの頬は
 真白け！

白くあかるく
 見ゆれども

ピエロの頬は
 さびしかり！

ピエロは
 月の光なり！

白くあかるく
 見ゆれども

月の光は
 さびしかり！

四. ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ
 月の嬌の父無児！
 月はみ空に身はここに
 身すぎ世すぎの泣き笑い

五. 月光とピエロと 唐草模様

月の光に照らされて
 ピエロ、ピエレット
 踊りけり
 ピエロ、ピエレット

月の光に照らされて
 ピエロ、ピエレット

歌ひけり
 ピエロ、ピエレット

踊りけり
 ピエロ、ピエレット

歌ひけり
 ピエロ、ピエレット

踊りけり
 ピエロ、ピエレット

月の光に照らされて
 ピエロ、ピエレット

月の光に照らされて
 ピエロ、ピエレット

3rd Stage 月光とピエロ

作曲者のことば

清水 脩

男声合唱の魅力にとりつかれてもう30年以上になる。あれは22・3歳のころであった。兄と弟、それに私の3人に、いま1人大阪の木村二郎君を加え、男声4重唱をたのしんだのである。1年ほども続いたと思う。週に1回、私の家でやさしい合唱曲をあれこれと歌った。しかし、この《重唱団》には名前もないし、もちろどこで発表するという気もなかった。ただもう4つの声を合わせて、ハーモニーのなかに浸り、陶醉していたばかりである。それより3、4年前、大阪外語グリークラブのメンバーとして、また指揮者として学業をほうり投げて、うつつを抜かしたのだが、今思い出すと、短かったが、この4重唱が一番強く私の心にきざみつけられた音楽体験であったようである。

それからあと、私は間歇的だが、つい15年ほど前まで、男声合唱をうたったり、指揮したりしてきた。中でも、戦後すぐのころ、東京男声合唱団というのを指揮したのは、私の音楽生活のなかで大きな意味を持っている。30名ばかりの団体であったが、メンバーの大半は、高校や大学で指揮者をつとめたり、パート・リーダーであったという連中で、根っからの歌ずきの集りであった。ロシア民謡の男声合唱を得意とし、大いに楽しみもし、あばれもしたが、私は外国の曲ばかりではあきたらず、合唱は言葉があるかぎり、日本人には日本語のうたがなくてはならぬと、当時若手の作曲家たちに、男声合唱曲作曲の依頼をした。指揮をしていた4年ほどの間に、たしか十数曲のいわゆる《邦人合唱曲》を発表した。邦人の合唱曲といえば、大半は戦前の中学校（今の中学と高校を合わせたもの）向の女声3部合唱曲か、さもなければ小学生用の2部合唱であったし、また作曲者も教育音楽畑の人にかざられていた。そういう時だから、東京男声合唱団委嘱の邦人男声合唱曲は、いろいろの意味で、画期的なものであった。今でこそ、作曲家が合唱曲を書くのは、ごく当たり前のことになっているが、その自分たしかに少々《生意気で、頭でっかちで、理想に走った》きらいがあった。もちろん、私もこの合唱団のために、次々と作曲した。《月光とピエロ》は、中でも私にとっては忘れることのできない作品である。コンクールの課題曲となった《秋のピエロ》を別にして、ほかの4曲は、週1回の練習日毎に、インクの乾かない原稿をもっていき、一枚しかない楽譜をピアノの上におき、かさなり合って歌った。なつかしい憶い出である。

私自身は、長い作曲生活の年月の間に、考え方も、手法も変わってきている。けれども、これらの作品は、私にとって、どれもこれもなつかしいものばかりだし、私の歴史のひとつこまでもある。作品は、うみ出され、発表され、印刷に付されたあとは、私をはなれてひとり立ちしている。どこで、誰が、どのように歌っているのか、私にはそのすべてに接することもできないし、知ることもできない。私の分身として、いや私の肉の1片として、人々のあいだに投げ出され、料理され、食われ、にくまれ、愛され……している。どのような仕方で、そうされているのか、私にはわからない。しかし、私という人間が、音たちに身を変えて、そこに存在することだけはたしかである。それでいて、その《私》は、現実ここにいる《私》とはちがったものであるに相違ない。それでいい、と私は思っている。

私から、コーラスとオペラを取り去ったらあとには何も残らないかもしれない。しかし、人間には生命の限界があり、コーラスとオペラから私をうばい去る時が必ずやってくる。そのとき、私の1枚のディスクは、私をこの世につなぎとめる物体となるかも知れない。

〈故人となられた作曲者が1970年（昭和45年）7月5日発売の〔TA-7024〕ジャケットに掲載されたものより抜粋〉

4th Stage

「The Testament of Freedom」



解説

ランドル・トンブソン (1899-1984) は、アメリカを代表する作曲家の一人。ハーバード大学で学び、同時にプロッホ等にも師事した。1922年から25年に奨学金を得てローマのアメリカン・アカデミーで研究した。ウェルズリー大学、カリフォルニア大学、カーティス音楽学校、ヴァージニア大学、プリンストン大学、ハーバード大学で教鞭を執った。

主な作品として、「Solomon and Balkis」、「The Nativity according to St. Luke」の2つのオペラと3つの交響曲があるが、特に合唱作品が注目されている。男声合唱曲では「Pueri Habraeorum」(1928)、「Tarantella」(1937)、「Alleluia」(1940)、「odes of Horace」(1942)、「The Last Wards of David」(1949)、「The Gate Heaven」(1959)、「Frostiana」(1959) 等がある。

「The Testament of Freedom」は、アメリカ第3代大統領トーマス・ジェファソン (1743-1826) の生誕200年を記念して作曲された。初演は1943年4月13日、ステファン・タトル教授の指揮、作曲者自身の伴奏、ヴァーニジア・グリークラブの合唱でなされている。(尚、ヴァージニア大学の初代総長はトーマス・ジェファソンである) この演奏はラジオで全国放送されたほか、海外出兵しているアメリカ兵等のために録音された。

この作品について、アメリカ音楽史の権威ギルバート・チェイスは、「作曲家は、慎重にいわゆる大衆音楽を書こうとしている。彼はより簡素な書法を用い

ることで作品に堂々とした壮大な性格を与えている。つまり、テキストの感情の高揚や明快な内容を率直に描写するために、ユニゾンを用いたのだ。」と述べている。

なお、このテキストの出典は、ジェファソンの以下の文章によっている。

- I. A Summary View of the Rights of British America (英国領アメリカの諸権利に関する見解の要約) (1774)
- II. III. Declaration of Causes and Necessity of Taking up Arms (戦端を開く理由と必要性についての宣言) (July 6, 1775)
- IV. Letter to John Adams, Monticello (マンティセロウのジョン・アダムスへの手紙) (September 12, 1821)

演奏にあたって

第2次世界大戦によって世界中が絶望の闇に閉ざされていた1943年にこの作品は初演された。(また、この年に日本では学徒動員が開始されている。) 当時のアメリカにおける芸術活動の多くは、軍国主義に傾斜し、ナショナリズム高揚のための政府の一つのプロパガンダとして利用されていた。従って、R. トンプソンの真意はともかく、大成功に終わった初演の演奏会は、例えば、A. ヒトラーの演説やW. フルトヴェングラーのベートーヴェンの演奏と同種の沸き立つような熱狂と興奮をアメリカ国民にもたらしたことだろう。

さて、9月からこの曲の練習に取りかかっているが、アンサンブルの度ごとにこの曲の奥深さには驚かされた。例えば、1曲目の、音型の上昇によって集団心理が押さえきれない程高揚していく様子、3曲目冒頭の軍隊の行進が近づいてくるようなリアルな描写には恐怖感すらおぼえた。また、中間部以降の東洋的音階や、日本の童歌風の旋律の突然の登場による強い皮肉に戸惑ったりもした。f (フォルテ) が f として充実することが、戦意高揚を促すようではばかれる気分になった。私たちが、R. トンプソンに対して抱いていた「モラリスト」のイメージは間違いであるかのように思われた。

しかし、4曲目前半部を占める情緒豊かな美しさは、完全に私たちを魅了した。練習を重ねるにつれ、その美しい叙情の内側からトンブソンの肉声が聞こえてくるように思えた。

それは、まぎれもない彼の平和と自由への強い祈りであった。そしてオクターブのF音によって表現される一条の光の部分へおいて、私たちは再び彼に対する深い尊敬の念を持つこととなった。

トンブソンからの一条の光が、今宵ご来場下さいました皆様と私達グリーンメンの希望の光となることを願って演奏したいと思

I, The God who gave us life gave us liberty at the same time; the hand of force may destroy but cannot disjoin them.

II, We have counted the cost of this contest, and find nothing so dreadful as voluntary slavery. Honor, justice, and humanity forbid us tamely to surrender that freedom which we received from our gallant ancestors, and which our innocent posterity have a right to receive from us. We cannot endure the infamy and guilt of resigning succeeding generations to that wretchedness which inevitably awaits them if we basely entail hereditary bondage upon them.

Our cause is just. Our union is perfect. Our internal resources are great... We gratefully acknowledge, as signal instances of the Divine favor towards us, that His Providence would not permit us to be called into this severe controversy until we were grown up to our present strength, had been previously exercised in warlike operation, and possessed of the means of defending ourselves. With hearts fortified with these animating reflections, we most solemnly, before God and the world, declare that, exerting the utmost energy of those powers which our beneficent Creator hath graciously bestowed upon us, the arms we have been compelled by our enemies to assume we will, in defiance of every hazard, with unabating firmness and perseverance, employ for the preservation of our liberties; being with one mind resolved to die freemen rather than to live slaves.

III, We fight not for glory or for conquest. We exhibit to mankind the remarkable spectacle of a people attacked by unprovoked enemies, without any imputation or even suspicion of offense. They boast of their privileges and civilization, and yet proffer no milder conditions than servitude or death.

In our native land, in defense of the freedom that is our birthright and which ever enjoyed till the late violation of it; for the protection of our property, acquired solely by the honest industry of our forefathers and ourselves; against violence actually offered; we have taken up arms. We shall lay them down when hostilities shall cease on the part of the aggressors and all danger of their being renewed shall be removed, and not before.

IV, I shall not die without a hope that light and liberty are on steady advance... And even should the cloud of barbarism and despotism again obscure the science and liberties of Europe, this country remains to preserve and restore light and liberty to them... The flames kindled on the 4th of July, 1776, have spread over too much of the globe to be extinguished by the feeble engines of despotism; on the contrary, they will consume these engines and all who work them.

The God who gave us life gave us liberty at the same time; the hand of force may destroy but cannot disjoin them.

我らに命を与えたもうた神は同時に自由をも与えたもうた。暴力は生命と自由を破壊するかもしれない。しかし生命と自由を引き離すことはできない。

我々はこの抗争のために多くの犠牲を払った。しかし、また自ら奴隷になるほど恐ろしいことはないことも知っている。名誉と正義と人間性にかけて、おとなしく自由を差し出すことなどできない。その自由は我々が勇敢なる祖達から受け継ぎ、そして我々の子孫のうち罪のない者達が我々から受け継ぐ権利を有しているものなのだから。我々には後に続く世代に既に言われた惨めな境遇に委ねるなどという不名誉な罪に甘んじることはできない。しかし、その惨めさは、我々が世襲の奴隷身分を下劣にも子孫に負わせるなら、避けえぬものとして彼らを待ち受けている。

我々の主張は正当、我々の団結は完璧、そして我々の国内の資源は莫大である。我々は神が我々に好意を持って下さっていることを感謝しつつ認める。神の摂理によって、我々が前もって軍事行動の訓練をすることで現在のように強大になり、自分自身を守る手段を得るまで、このような厳しい論争に呼び入れられることがなかったことがその例証である。これらの生気をもたらす考えに強化された熱意をもって、我々は神と世界の前に最高に厳粛に宣言する。我々は敵によって戦争する決意をしなければならなくなった。慈愛ある造物者が恩寵によって授けられたあれらの力を最大限に活用し、減少することのない確固たる忍耐をもって、自由を守るためあらゆる危険をものともせず戦わねばならない。意は一つに決した。奴隷として生きるよりは自由人として死のう。

我々が戦うのは栄光のためでも征服のためでもない。人類に注目すべき惨状を見せるためだ。そこでは人々は敵に攻撃されているが、彼らはその敵達を挑発して怒らせたわけではない。彼らはその敵達を非難してもいないし、義務違反の疑いすらあるわけでない。敵達は彼らの特権たる文明を自慢しているが、奴隷になるか、さもなくば死かという以上に穏当な条件をいまだに提案しない。我々の生まれた地において、我々の生得権であり、最近侵犯されるまでは常に享受していた自由を防衛し、先祖達と我々自身が誠実に働き励むことのみによって獲得された財産を今現実のものとなった暴力から守るために、我々は武器をとった。攻撃者の側の敵意が尽きて再び起こる危険がなくなったら、我々も武器を置こう。しかし、それまでは戦い続けよう。

私は死ぬ時には、絶対に自由という光が着実な前進をしていることを望みながら死ぬだろう。たとえ、野蛮な独裁制という暗雲が再びヨーロッパの知識と自由を覆い隠すとしても、この国はなお光たる自由を保持しそれをあるべき姿へと回復させねばならない。1776年7月4日に灯された火は炎となって地球上に広がり、独裁制の脆弱な兵器では消すことができないほどである。反対にその炎がそれらの兵器とそれらを操作している全ての者達を焼き尽くすであろう。

我らに生命を与えたもうた神は、同時に自由をも与えたもうた暴力は生命と自由を破壊するかもしれない。しかし、生命と自由を引き離すことはできない。

第67回関西学院グリークラブリサイタル

● 1999年1月24日(日)14:00開場・14:30開演 東京:昭和女子大学人見記念講堂
● 1999年1月31日(日)14:30開場・15:30開演 大阪:フェスティバルホール

- ◆ MISSA in B
- ◆ Musical "Man of La Mancha"
- ◆ コターイ男声合唱曲集
- ◆ 男声合唱のためのアイヌのウポボ
(現役・OB合同ステージ)
- ◆ 男声合唱組曲 水のいのち

指揮: 林 雄一郎
指揮: 辻 伸高 ピアノ: 細見真理子
指揮: 広瀬康夫
指揮: 北村協一
指揮: 北村協一 ピアノ: 藤田 雅

—1999年
創部100周年を迎える
関西学院グリークラブに
since 1899 御期待下さい—

〈お問い合わせ〉
関西学院グリークラブホール
TEL/FAX 0798-52-6471

Naniwa Choraliers '99

in Takarazuka



指揮 伊東恵司

- グスタフソン/パディングス〜合唱作品より〜
- 第5回演奏会記念?あれもこれも歌ってみたい!
- 三崎のうた 詩 北原白秋 ● 作曲 多田武彦

宝塚ベガ・ホール
1999.2.28(Sun)
Open 15:00
Fee ¥1,000

お問い合わせ
遠藤 0727-51-9713 ● 矢野 06-941-1639

Naniwa Choraliers 5th Concert

"なにわの華" 大募集!!

- 入団資格
男性に限る。歌が好きである。
- 練習/毎月
第2,4土曜日 18:00~21:00
- 会場
淀川善隣館(地下鉄天六駅徒歩15分)
- 会費等
練習参加1回につき¥1,000円
(楽譜代・呑み代別途)

本年度関西合唱コンクール金賞

KOBÉ COLLEGE CHORUS CLUB

I MESSE
指揮: 森 久幸
オルガン: 片桐聖子

II 女声合唱組曲
美しい訣れの朝
指揮: 井上真美子
伴奏: 辻本香織

神戸女学院大学 コーラス部 第39回 定期演奏会

1999年2月26日(金)
開場 18:00 開演: 18:30
西宮市民会館
アミティホール
〈連絡先〉古高彰子(0798)53-1546

企画ステージ
WEST SIDE STORYより
指揮: 森 久幸

女声合唱のための組曲
「旅」
指揮: 森 久幸
伴奏: 曾我麻衣子

III
IV

長田育忠 & 熊谷啓子 ピアノデュオリサイタル

1999年4月17日(土) いずみホール 開場 18:30
開演 19:00

一般: ¥3,500 学生: ¥2,000 (いずれも当日18:00より座席券交換)

- Petite suite (C. Debussy)
- Rhapsody in Blue (G. Gershwin)
- 2台ピアノのための組曲「唱歌の四季」(三善 晃)
- Suite No.2 Op.17 (S. Rachmaninoff)

お話: 日下部吉彦

後援: 関西合唱連盟・全日本ピアノ指導者協会
連絡先: 松田直美 TEL/FAX: 0727-24-7885

第34回 全同志社メサイア演奏会

1998.12.24(木) 京都コンサートホール大ホール

開場 17:00 開演 18:00 入場料 1,500円(当日座席券交換)

指揮: 山下一史
Sop 岡本明美 Ten 金谷良三
Alt 野村恵子 Bass 三原 剛

主催: 全同志社メサイア演奏会実行委員会
〈お問い合わせ〉同志社交響楽団BOX 075-251-3185(呼)

淀川混声合唱団では、
団員を募集しています。

一緒に



歌おっ!!

- 練習/毎月
第2,4,5日曜 13:00~17:00
第3土曜 18:00~21:00
- 練習場
日曜 ミード社会館(阪急十三駅)
土曜 淀川善隣館(地下鉄天六駅)

第11回演奏会
1999年7月17日(土)
いずみホール

- 谷川雁 作詞 ● 新美徳英 作曲
「ぶどう摘み」 より
「北極星の子守歌」 より
ほか、乞うご期待!!

客演指揮 本山秀毅
指揮 伊東恵司
伴奏 長田育忠

● 林 075-781-0640 ● お問い合わせはこちらまで ● 遠藤 0727-51-9713 ●

Takara

一緒に飲みたい、うまそうです。

よろこびの清酒

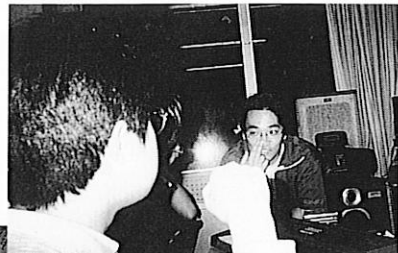
松竹梅

お酒は20歳を過ぎてから 宝酒造株式会社

GLEE '98 LIFE

「充実したキャンパスライフをお約束します！」
 今年の新歓活動のキャッチフレーズの一つとして乱用してきた言葉。まさしく当クラブの活動内容は「充実」しています。いや、むしろ「忙し過ぎ」です。そこで、ある意味“良きマンネリ化”を迎えている数々の活動を紹介します。

ステージののりには厳しいオーディションに合格しないとダメ。(写真)は個人オーディション風景↓



↑新歓活動方法について議論はつきない



京都合唱祭

6月のある日。東西四連に向けて厳しい練習を行っている最中、京都府会館に於て、京都合唱祭に出演した。アメリカ演奏旅行中に何度も歌った男声合唱組曲「阿波」より「踏鞴」とイェール大学から持ち帰った「Eli Yale」の思い入れ深い両曲を演奏した。そのせいか、緊張することなく歌え、いかげずで大成功のうちに演奏を終え、各方面(?)から大絶賛をいただくことができた。特に関屋晋先生からすばらしい講評を頂いたことは部員一同本当にうれしいことであった。多くの京都の他の合唱団の演奏を聴くこともでき、何はともあれ四連に向かっていいHOP?STEP-(JUMP)になった合唱祭であった。(社長)

第47回東西四大学合唱演奏会

遂に来た！大阪での東西四連。浅井敬壺先生の指揮で単独演奏「雪と花火」、そして、四大学合同演奏「十の詩曲」の指揮も浅井先生。夢のようでした。情緒豊かな単独演奏、鳥肌ものの合同演奏。特に、満場の会場、演奏後の鳴り止まない怒濤の様な拍手は忘れることはできません。冷めない興奮は京都三条賀茂川へのダイビングにてやや鎮まり、打ち上げ会場「平八」にて再び燃え上がった。世界で一番長い夜であった。(打ち上げ会場の確認は忘れずに)

アメリカ演奏旅行帰国報告演奏会

3週間に渡るアメリカ演奏旅行で我々はたくさんの現地の学生たちと交流し、多くの音楽経験をしました。こうした貴重な体験ができたのも物心両面に渡り支援して下さったのが、OBの皆さまです。そこで、お世話になったOBの皆様への感謝と帰国報告を兼ねて、演奏会を行いました。OBの合唱団であるクローバークラブの皆さんとのジョイントコンサートでもあるこの演奏会は、同グリの歴史を語る際には必ず出てくる同志社大学栄光館を会場として、古き良き同志社グリーの演奏会、新旧(?)グリークラブのファミリーコンサートとも言える演奏会でした。普段一緒に歌う機会がなかなかない現役の我々にとってこの演奏会はOBの方達と共に歌え、大変楽しいものでした。演奏会の準備から、演奏後のレセプションまで何から何までOBの皆さんにお世話になり本当に感謝しております。

新歓活動

春。入学式会場にて我々は「カレソン」を歌う。入学おめでとう、そんな気持ちを込めた熱演にうたれて、我がクラブの門を叩くもの数知れず。普段は閑散としている田辺キャンパスが祭りの如く人、人、ヒト科で埋め尽くされる新歓期間。わずか7日の期間中にあらゆるクラブ、サークルが「種の保存」を目指す本能行動に突き動かされ田辺キャンパスは勧誘、勧誘、また勧誘の修羅場と化す。練習週2回、女子大コンパ、その他各種イベント盛りだくさんと称し(ウソ！部分的に本当)、デモ演奏会にて魅力的な演奏披露する。新入生はそのまま夕食会に引き摺り込まれ、同グリのあらゆる魅力の虜にされて入部を決意するようになる。それを上回生は期間中毎日繰り返すことになる。辛い、辛いがクラブにとって勧誘活動は死活問題である。「種」はまかねば、まき散らせ。こうして集まった新入生は後日、対面式にて顧問の澁谷先生と上回生一同を前にして、入部を誓うのでした。今年も、面倒見切れない程新入生が集まりました。ってなればいいけれども…。推して知るなかれ。新しい種がまかれた春でした。

(委員長)

'98 GLEE LIFEの1年間

2月13日	フェアウェルコンサート	(同志社大学学生会館ホール)
2月17～3月10日	アメリカ横断演奏旅行	(N.Y～BOSTON～L.A～HAWAII)
3月20～21日	卒業式参列	(同志社大学栄光館)
3月23～25日	春合宿	(大津ユース)
4月1～7日	入学式参列・新歓活動開始	(同志社大学田辺キャンパス)
4月18日	アメリカ演奏旅行帰国報告演奏会	(同志社大学栄光館)
4月25日	対面式	(同志社大学神学館)
5月5日	関西六連運動会	(服部緑地)
5月30日	京都合唱祭	(京都府会館)
5月31日	松下電器松紫会パーティー出演	(守口プリンスホテル)
6月28日	第47回東西四大学合唱演奏会	(フェスティバルホール)
7月31日	京都ブライトンホテルリレー音楽祭inアトリウム出演	
8月8～10日	東京・静岡演奏旅行	(調布グリーンホール・AOIホール)
9月2～4日	鳥取演奏旅行	(梨花ホール・鳥取市民会館)
9月6～11日	夏合宿	(鉢高原)
9月18～19日	和歌山県開智高校学園祭出演	
10月17日	京都北ライオンズクラブ結成35周年式典	(京都グランビシアホテル)
10月22日	南城陽中学校音楽鑑賞会出演	(城陽バルクホール)
10月31日	大山崎小学校音楽鑑賞会	
11月8日	第25回関西六大学合唱演奏会	(フェスティバルホール)
11月21日	同志社政法会総会レセプション	(京都ホテル)
12月14日	第94回同志社グリークラブ定期演奏会	(シンフォニーホール)
12月24日	第34回全同志社メサイア演奏会	(京都コンサートホール)

御座敷

通称「OZ」それはいつも芸術的で少し難しい曲ばかり歌っている僕らが、パーティーの前座や学校行事等で、ノリのいい民謡やポピュラーソングを歌わせて頂く依頼演奏会のことです。皆様のパーティーを僕らの歌でちょっと味付けてみてはいかがでしょうか。僕らの歌声が必要ならばどんな行事であろうとも、どんな遠くであろうとも喜んで馳せ参じます。ともかくどんなジャンルでもかまいません！お気軽にお電話下さい。出会は1本の電話から始まります。同志社グリークラブBOX TEL (075) 251-3185 (呼)そして、今年度我がクラブをお呼び下さり、温かい拍手を下された皆様、誠にありがとうございました。(ピンク猿)

東京・静岡演奏旅行

今年の8月、グリーメンは東京と静岡を訪れた。この演奏会が当時フレッシュと呼ばれていた1回生の初ステージである。東京では調布グリーンホールにて「黒人霊歌」と「愛唱歌集」を披露し、フレッシュはめでたくデビューを果たした。上回生はOBの方と「水のいのち」で共演した。フレッシュにとってストームやレセプションは雰囲気からして大きいものであった。「秋のピエロ」をOBと上回生がレセプションにて歌った下だったのが心に残っている。また、静岡ではAOIホールというすぐ響きの良い立派なホールにて歌わせてもらい、そのせいか(?)前日より更に良い演奏ができたようだ。3日目には上回生は静岡の老人ホームを訪れ、若い歌声を日頃私たちの演奏を聞く機会のない年配の方々の心に響かせた。演奏旅行は大成功をおさめ、私たちは楽しい思い出を作り、またOBの皆様の温かい支援を深く認識した。(1回生ロケットS)

アメリカ演奏旅行中
 古風なハワイの教会での
 ワンショット→

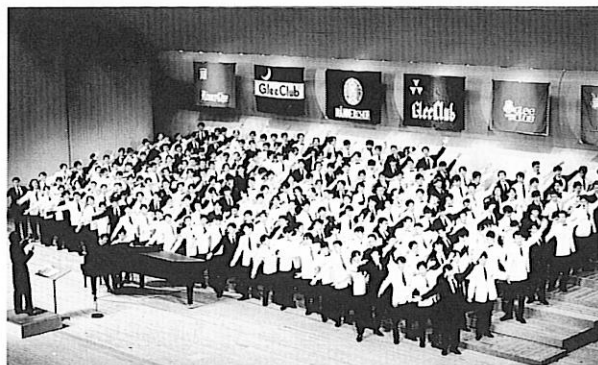
OBと一緒に歌い、同グリの伝統を実感!



夏合宿

1週間、俗世を離れてひたすら歌いまくる。食らって寝て歌って、歌って、歌いまくる。それが夏合宿だ。練習はフレッシュの僕らにとってあまりにハードで、恐怖のアンサンブルでは、楽譜、子音、理性、意識そして譜面台など飛ぶものは何でもすっ飛んでゆく。最終日、毎年恒例の行事のあと、僕らフレッシュは晴れて一回生としてグリーンメンの仲間入りをしました。その日深夜の二回生による園芸大会で飛んだのはスリッパだった。リス先輩の「冬眠の支度」やものまね大会の大先輩がハチ高原にいつまでもこだまするのでした。

(1回生S久間)



↑ 関西六大学合唱演奏会

鳥取演奏旅行

9月2日 11時 学生会館前に集合。なぜかステージコートを忘れてくるものもいた。

9月3日 午前中 鳥取東高校文化祭に出演。あまり聴いているようではなかった。

夕方 気分を変えてメインである鳥取演奏会に臨んだ。みな静聴してくれたのでとてもうれしかった。その後のレセプションでは同志社鳥取クラブの皆さんの温かい歓迎を受けた。

9月4日 鳥取砂丘を見学し、砂丘のヒロ牧場で馬車に乗った。そんなすばらしい思い出とともに鳥取を後にした。

(演奏旅行陣中日誌より抜粋 匿名)

関西六大学合唱演奏会

この日は我々1回生にとって記念すべき日である。何といてもあの名高いフェスティバルホールで演奏できるのだから。そしてホールに立ってみると、そこにはまっくら暗闇の中に段階の位置を示す光が星のように散らばっており、一言で言うならそこにはまさに宇宙である。そこで熱演を行ない、大成功を納められたのは、いわゆる本番に強い同グリ精神の賜物なのだろう。我々1回生は3年後もこの精神を受け継ぎ更なる発展を心に誓った日であったのです。また、実は私はこの大事な日に、遅刻をしてしまいました。皆さんすいませんでした。(コモダ)

全同志社メサイア演奏会

同グリ、同志社交響楽団、同志社女子大学メサイア研究会、そして一般公募によってこの演奏会は行われる。その起源は同志社創立50周年の1925年まで遡ることができる。さて、グリ男の立場からメサイアを見てみるとその印象はいささか複雑である。なぜなら、年によって異なるが定演が終わって週間も立たないのにクリスマス・イヴの24日の日に演奏会が開かれることがあるからだ。こんなマジで師走な年末を僕らに強いるメサイアだが、今日まで続いているのは多くの人の熱意、努力、そして何よりメサイア自身がすばらしいからであろう。今年もメリークリスマス！(殿様①号)

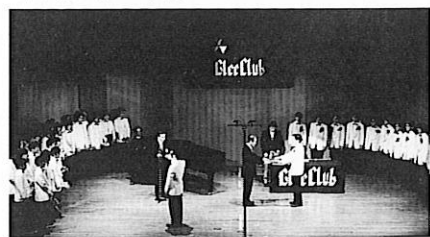
フェアウェルコンサート

四回生は最後の晴れ舞台、そして学年を問わず全ての団員が男泣きする日である。四年間の苦しい練習、数々のコンサート、良き思い出、苦しい思い出もこの日だけは歓喜の歌声に乗りホールに響き渡る。四回生によるお楽しみステージのあと、セレモニーが行われる。卒団生の「春のしらべ」で熱いものが込み上げ、在団生が「You'll Never...」を歌い始めると皆、涙を押さえきれなくなる。日頃、各自の音楽論、マネージについてぶつかり合っているが涙は全てを洗い流し、互いに尊敬の念すら思い起こさせてくれる。ただし、その後の飲み会で最後の宴に酔い狂う鬼と化した卒団生に死ぬ程飲まされた在団生は、遠く意識の中で一瞬でも尊敬の念を抱いた自分の浅はかさを悔やむのでした。今年のフェアウェルは栄光館にて2月20日です。(殿様②号)

↓メサイア演奏会



↓フェアウェル式典



Video, Recording, Design

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で今宵のコンサートのCD制作を担当しております。

Sound Studio Oka

CD制作
1枚から!

その他、録音、ビデオ撮影 及び
カセットテープ・ビデオテープ・
パンフレット・ポスター製作も承ります。

株式会社 サウンドスタジオOKA

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町70番地
TEL (075) 712-5710 / FAX (075) 721-0835
TOKYO POINT TEL / FAX (03) 5780-6260

出力サービス

OKA GRAPHIC CENTER

ホームページアドレス:
<http://www.okagc.co.jp/>

健康主義

世紀末の宿命？でしょうか。
日本全体が大変な時を迎えている、いま。
私たち双林は、今年あえて「健康主義」を唱えます。
人、そして組織が心身ともに健康であってこそ、
「いまの大変」を乗り越える力が
生まれると信じるからです。



アイデアと技術で情報産業を担う

株式会社 双林印刷社

〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル
Tel. (075) 681-7748 Fax. (075) 672-5602

DOSHISHA GLEE CLUB CONCERT TOUR IN U.S.A.

ENJOY LISTENING! JAPANESE CHORAL HARMONY, SINCE 1904

TOUR CONTENTS

FEBRUARY 20, 1998
CONCERT AT YALE (JOINT)
<WOOLSEY HALL>

FEBRUARY 21, 1998
CHORAL FESTIVAL
AT SMITH COLLEGE

FEBRUARY 22, 1998
CONCERT AT AMHERST COLLEGE
<BUCKLEY RECITAL HALL>

FEBRUARY 28, 1998
CONCERT AT U.C.DAVIS
<FREEBORN HALL>

MARCH 3, 1998
UNIVERSAL STUDIO CONCERT
<OUT-DOOR THEATER>

MARCH 4, 1998
CONCERT AT POMONA COLLEGE (JOINT)
<BRIDGES HALL>

MARCH 6, 1998
CONCERT AT U. OF HAWAII (JOINT)
<ST. ANDREWS CHURCH>



2月18日 ニューヨーク

Dear Ichiro Kato,

Thank you for wonderful event! Doshisha sang beautifully, powerfully and musically. You should be very proud. Please pass along my congratulations to the rest of the singers and leaders. It was a pleasure to see Professor Shibuya again.

The Amherst College students enjoyed our weekend with you I hope you did as well.

I hope the rest of the tour went well!

Best wishes Mallorie Chernin.

(アーモストグリークラブ M. Chernin先生より)



2月21日 アーモストグリークラブ・ウエルカムパーティー



2月23日 (ラットランド) グレース教会



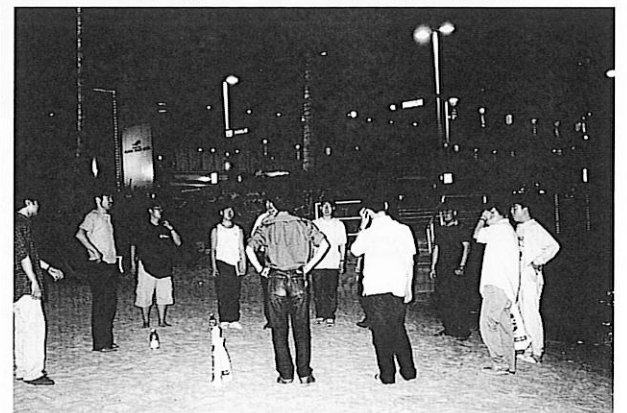
不明



3月3日 ユニバーサルスタジオ公演



3月4日 ポモナ大学 (L.A)



3月8日 ハワイ最後の夜、浜辺で歌う12人

謝恩会 in ブライトン

Have a nice graduation.

来春、ご卒業の皆様へ。学生時代の最後の思い出として、あざやかな門出のときを、京都ブライトンホテルでお迎えください。ブライトンだからこそできる、お得なパーティープランをご用意いたしました。



冬季限定 『スープがちがう』冬の味覚をダイナミックな鍋料理で!

ブライトンマルシェ鍋仕立

buffeスタイルでお楽しみいただく、ブライトンだけの冬限定プラン!



まずはお一人ずつに『旬菜膳』をご用意!

お料理
お一人様
6,500 (税・サ込)
円より
30名様より

新鮮素材を鍋+オープンキッチンで調理!

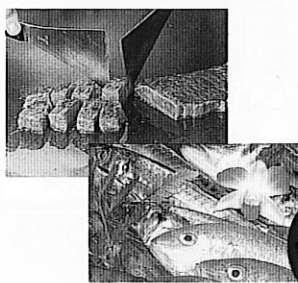
●お一人様 **6,500円**より (税・サ込)

旬菜膳+ブライトンマルシェ鍋+デザート

●お一人様 **2,000円** (税・サ込) でフリードリンク

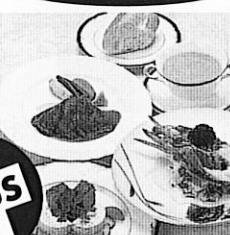
グランマルシェ

ブライトンマルシェキフランス料理コース、テーブルバイキングのいずれか



☆フランス料理コース

☆テーブルバイキング



お料理
お一人様
7,000円より
30名様より

どちらか
好きなお料理を
お選びください。

好きなものを
お好きなだけ!

PLUS **デザート**

●お一人様 **7,000円**より (税・サ別) ●お一人様 **2,000円** (税・サ別) でフリードリンク

(各プランともご利用時間は2時間とさせていただきます。ご人数に合わせて宴会場をご用意いたします。)

京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西) お問い合わせは、宴会予約 **075-451-0489**

<http://www.brightonhotels.co.jp>



日本教育旅行 (株)

〒600-8155 京都市下京区下珠数屋町通東洞院東入

心と体を鍛えよう!!

合宿・ゼミ旅行・スキー旅行・
一泊コンパ・海外旅行などなど...
何でもご相談下さい。

0120-040566

075-351-0405



本店/京都・祇園・四条通南座東
八坂神社参道
☎075(531)0008

祇園平八

元祖 うどんちり
しゃぶしゃぶ 総本家

旬の京野菜提供店

祇園平八は鍋料理で知られていますが、お寿司、天ぷら、松花堂弁当、そして会席料理も、ご用意してお待ち申し上げます。

- | | |
|----|-----------|
| 1階 | 天ぷらコーナー |
| 2階 | テーブル席とお座敷 |
| 3階 | 和室 |
| 4階 | 舞台付き広間 |



車椅子用エレベーター
身障者トイレ完備

団員紹介

同志社グリークラブ

名誉顧問／遠藤 彰 顧問／澁谷 昭彦 ヴォイス トレーナー／大久保 昭男

幹事長 西岡 淳
内政 森 雅章
板倉 伸久
外政 藤田 威夫
野中 耕
大科 優貴
内田 和孝
ステージ 加藤 明
会計 嶋田 和晃
阪本 大輔
小松原浩司

演奏旅行 加藤 一郎
西川 佳安
資料担当 山口 隆介
松井 義忠
OB担当 大久保 学
文化団体連盟運営委員 澤田定一良
全同志社メサイア実行委員 松本 祐輔
西岡 淳
澤田定一良
赤澤 昌樹

学生指揮者 石井 隆昭
学生副指揮者 五十嵐嘉紀
Top Tenor Part Leader 伊賀上友紀
堀江 元治
Second Tenor Part Leader 池淵 正樹
竹之内達也
Baritone Part Leader 森 雅章
五十嵐嘉紀
Bass Part Leader 矢倉 聡明
弓山 達也

TOP TENOR

伊賀上友紀 (文4・松山東)
加藤 一郎 (経4・豊橋東)
岸田 輝哉 (工4・報徳学園)
堀江 元治 (法3・同志社香里)
松本 祐輔 (商3・青雲)

西川佳安 (法3・守山)
西岡 淳 (法3・筑紫)
阪本大輔 (商3・清教学園)
林 隆宏 (法2・新居浜西)
岸本洋介 (商2・洛西)

薦田 智明 (商1・川之江)
村上伊佐夫 (工1・熊本マリスト学園)
山田 聡 (工1・清風)

SECOND TENOR

藤田 威夫 (文4・関東学院)
池淵 正樹 (法4・米子東)
加藤 明 (商3・山形南)
小松原浩司 (工3・大安寺)

松井 義忠 (工3・大手前高松)
野中 耕 (経3・四日市南)
竹之内達也 (法3・筑紫丘)
澤田定一良 (文2・清風)

西 俊輔 (経1・東淀川)
島本 英年 (経1・同志社)
渡辺 哲平 (商1・阪南大学)

BARITONE

村上 隆明 (法4・比叡山)
森 雅章 (法4・大垣北)
嶋田 和晃 (工4・藤島)
山口 隆介 (文4・滝川)
五十嵐嘉紀 (商3・開智)

大科 優貴 (法3・北大和)
大久保 学 (法3・北大和)
内田 和孝 (経3・操山)
赤澤 昌樹 (法2・岸和田)
本田 絢 (商2・東陵)

福田 一登 (文1・畝傍)
畠中 清志 (文1・仙台第一)
小野寺直人 (法1・仙台南高校)
東条 孝史 (工1・長田)

BASS

石井 隆昭 (経4・崇徳)
中村 慎吾 (法4・岐山)
矢倉 聡明 (経4・明星)
板倉 伸久 (商3・八鹿)

管 有正 (文3・札幌北)
弓山 達也 (文3・丹原)
白石 法之 (法2・大手前)
小野 広展 (工1・川西緑台)

OB協賛

第94回同志社グリークラブ定期演奏会OB協賛芳名録

今回の定期演奏会の開催にあたり、下記の先輩方の協賛を頂きました。誌上ではございますが、この場にて厚く御礼申し上げます。

同志社グリークラブ

昭和27年卒 武井 怜治	34年卒 米田 治夫	42年卒 澤井 浩一
今西 政弘	大友 慶介	澁谷 和彦
28年卒 下山 茂	35年卒 砂原 和彌	56年卒 楠木 潔
29年卒 吉田 庄之介	36年卒 寸田 達	61年卒 小西 正俊
30年卒 福島 圭司	盛田 恕正	平成2年卒 新井 正
31年卒 朝倉 盛之	横田 義	平成10年卒 入江 隆生
橋 守	38年卒 林田 慎也	
野村 忠	高田 一三	
佐々木 幹郎	39年卒 後藤 健夫	
32年卒 大島 昌夫	岩本 六馬	
梶井 丈治	40年卒 渋谷 膺一	
犬井 晃	41年卒 北村 徹男	
森 泰一	北山 良	
	木下 利彦	

※尚、メ切の関係上、掲載できなかった先輩方もおられます。

今後の演奏会情報

第34回全同志社メサイア演奏会

1998年12月24日(木)

京都コンサートホール
出演団体：同志社グリークラブ
同志社女子大学メサイア研究会
同志社交響楽団、一般公募

第94回同志社グリークラブ 卒園生のためのフェアウェルコンサート

1999年2月20日(土)

同志社女子大学栄光館
出演団体：同志社グリークラブ

第17回同関交歓演奏会

1999年6月19日(土)

新大阪メルパルクホール
出演団体：同志社グリークラブ
関西学院グリークラブ

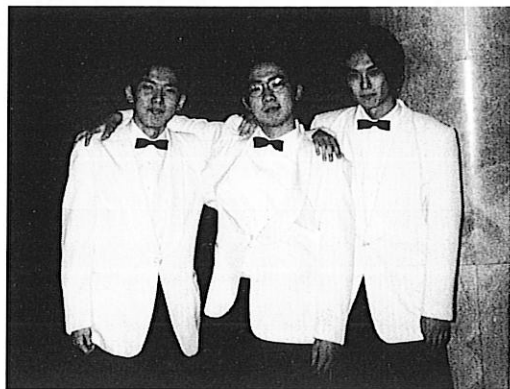
第48回東西四大学合唱演奏会

1999年6月27日(日)

昭和女子大学人見記念講堂
出演団体：同志社グリークラブ
関西学院グリークラブ
早稲田大学グリークラブ
慶應義塾ワグネルソサエティー男声合唱団

編集後記

内田 和孝
「自分の常識」と「クラブの常識」と「社会の常識」は違う。とにかく、一回生の「東西四連」以来憧れていたマネージャー、中でも外政という職に就く機会を与えてくれ、信頼してくれた諸先輩方、同回生に心から感謝。



野中 耕
まだまだ未熟な私がこうしてやられているのも、理解ある先輩、同回生の仲間、そして先輩のおかげである。この場を借りて感謝の気持ちを表したい。アリガトウ!

大科 優貴
「冬眠中につきコメントを差し控えさせていただきます」

本日はお忙しい中を御来場下さしまして、誠にありがとうございます。最後になりましたが、このパンフレット製作にあたりまして、快く原稿を御執筆下さいました諸先生方、広告並びに、協賛を頂きました皆様、双林印刷の迫様、その他この日のために御尽力下さいましたすべての方々、そして何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

1998年12月 同志社グリークラブ一同

第94回同志社大学グリークラブ定期演奏会パンフレット

1998年12月14日発行

発行：同志社グリークラブ／協賛：大和銀行合唱団／印刷：株式会社双林印刷



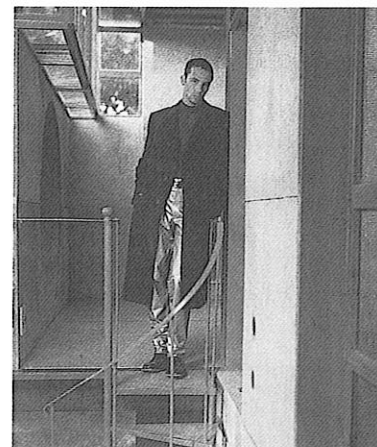
GENNY



malo



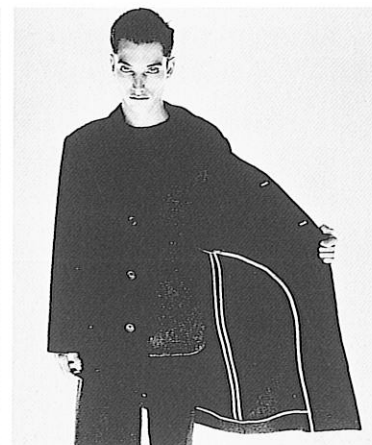
byblor



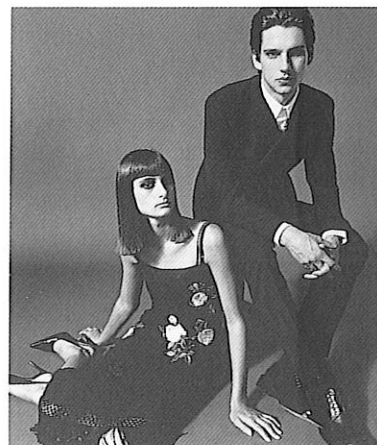
FENDI



DOLCE & GABBANA



DOLCE & GABBANA



D&G
DOLCE & GABBANA

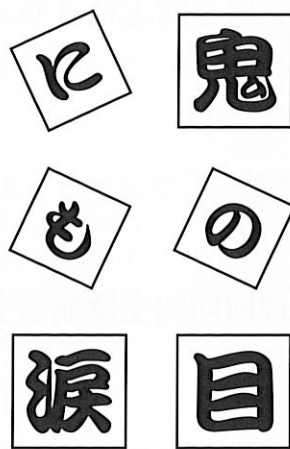
三崎商事グループ

ジェニージャパン株式会社 ビブロスジャパン株式会社 三崎商事株式会社

代表取締役社長 三崎 政二

東京／東京都江東区有明3-1 TFTビル 東館7F 03-5530-5751 大阪／大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル5F 06-251-1171

第九十四回同志社グリークラブ
卒団生のためのフェアウェルコンサート



とき 1999年2月20日(土)
ばしよ 同志社女子大学内

栄光館

協賛 同志社教会